

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和2年度分)

<県の評価等>

施設所管部名: 農林水産部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県上野森林公園 (伊賀市下友生字松ヶ谷1番地)
指定管理者の名称等	NPO法人 ECCOM 理事長 森 豊(三重郡菰野町千草 3927-1) (旧称:特定非営利活動法人 三重県自然環境保全センター)
指定の期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1 森林公園の森林、植物等の管理に関する業務 2 森林公園の施設、設備の維持管理及び修繕に関する業務 3 森林公園の施設、設備の利用に関する業務 4 自然体験型イベントの実施に関する業務 5 ホームページ等による森林公園内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務 6 生物多様性の保全に配慮した取組に関する業務 7 その他森林公園の管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R元	R2	R元	R2	
1 管理業務の実施状況	B	B			普段の清掃、適切な植物管理、日々の巡回による異常個所の早期発見など、施設の適切な維持管理、環境の美化に努めている。 また、森林の整備は公園ボランティア「モリメイト」との協働により適切に行われている。
2 施設の利用状況	A	A			年間利用者数の目標達成率は、A評価基準を上回り過去最高の152.9%(111,594人)となり、評価できる。
3 成果目標及びその実績	B	B			施設満足度(目標 80%に対し 89.5%)、自然体験型イベントの満足度(目標 92%に対し 94.7%)ともに目標を達成した。

※「評価の項目」の県の評価 : 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・成果目標については、年間の施設利用者数、施設利用者の満足度、自然体験型イベント参加者の満足度の全ての指標で目標を達成している。 ・森林、植栽木、花壇等の植物管理を適正に実施し、良好な景観の維持に努めている。利用施設の保守点検、日常点検、清掃を適正に実施しており、利用者が安全で快適に利用できる環境を整えている。 ・森林公園利用者のために、インターネットによる広報や利用受付も行い、イベント情報を中心とするメールマガジンを希望者へ配信するなど情報発信を積極的に行っている。また、伊賀地域の小学校、幼稚園、保育園等の子ども達を対象とした自然体験プログラムを開催するなど、森林環境教育の場としての園内利用のPRに努めている。 ・イベントについては、新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで、観察会等の自然体験型イベントやものづくり、展示会等も含めて、78回(このうち自然体験型イベントは74回)開催しており、自然体験型イベント参加者の満足度は94.7%と高く、積極的に自然とふれあう場を提供している。 ・公園ボランティアの「モリメイト」との協働で森林の整備を実施し、動物(野鳥、昆虫、小動物)への影響も含めた生態系に配慮した管理を行っている。また「みえ生物多様性推進プラン」に沿って、希少動植物の保護や外来生物の駆除などの取組を行っており、生物多様性の確保に努めている。
--------	---

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・業務執行体制については、事務分担・責任の所在を明確にするとともに、職員を森林公園管理事務所に常勤として4名、非常勤として2名配置している。また、危機管理に関しても、マニュアルを作成し、自然災害や公園内での事故対応及び報告体制を平日・休日ともに整備し、適切に対応している。・利用者のニーズにあった公園管理を適切に実施したことにより、令和2年度においても令和元年度に続き全ての目標を達成し、森林、環境学習のための利用者の増加や、より良いサービスの提供につながられている。・新型コロナウイルス感染症対策として、県の「新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた三重県指針」に基づき、来園者への対応やイベントの中止などに適切に対応しており、今後も引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行うとともに、利用者の満足度向上につながる新たなサービスの提供に取り組まれない。 |
|--|--|

<指定管理者の評価・報告書(令和2年度分)>

指定管理者の名称: NPO法人 ECCOM

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況

① 三重県上野森林公園管理事業の実施に関する業務

誰もが日常から気持ちよく来園できるよう、植物管理、施設管理をはじめとした園内管理を徹底するとともに、「三重県上野森林公園」の持つ自然環境を最大限に活用したイベントを実施することにより、公園のPR並びに来園者の増加に努め、以下のような事業を行った。

ア) 三重県上野森林公園の施設及び設備の利用に関する業務

- ・窓口業務として、日常的に来園者からの自然情報や公園利用に関する問合せに対応し、開花状況の提供や散策ルートなどの提案を行った。また、電話やメールによる各種問い合わせの対応を行い、利用者サービスに努めた。
- ・園内各施設の団体利用に関して、窓口での利用申請受付の他、インターネットによる広報、受付も行き、事前に施設の情報提供や利用に係るノウハウの提供を行った。また来園者の要望を受け、職員が自然観察ガイドや自然体験教室を実施するなど、利用者へのサービスに努めた。
- ・感染症対策として、ウェブサイトや園内の掲示などで新しい生活様式に則った利用を啓発するとともに、園内の利用の多い場所にアルコールを設置し、手指の消毒を励行した。また利用の制限などについて、利用者に混乱が起きないように、その都度分かりやすく案内できるよう掲示や広報等を行なった。
- ・ビジターコテージ展示室では、前年度に引き続き、図書コーナーと木製遊具を設けたことで、館内の滞在者数、滞在時間ともに増加し、好評を得ることができた。また、本物の生きものを間近で見てもらう機会を拡充するため、両生類や昆虫類の飼育技術を持ったスタッフが中心となり、様々な生きものの生体展示を行った。具体的には「アカハライモリ」(4月～3月)、「アズマヒキガエル」(4月～3月)、「アカミミガメ、ヤモリの卵」(6月～9月)、「スズムシ」(7月～9月)、「ニホンヤモリ」(12月～3月)などの生体展示を行った。特にビジターコテージ玄関口に設置している「アズマヒキガエル」の展示は、自由に野外で捕まえたエサを与えられる体験型の展示となっており、子どもから大人まで多くの来園者に好評であった。
- ・展示室では、「七夕飾り」(6月～7月)、「三重県の生きもの写真展」(9月)、「森の絵馬展」(1月)などを開催した。ビジターコテージホールでは、季節に合わせた展示を設置するなど、来園者が何度来ても楽しんでもらえるような工夫を常時行い、それによりリピーターの増加に繋がった。
- ・ビジターコテージ周辺では、昨年度に引き続きハンモックやトランポリン、竹や木でできたおもちゃを設置した。また、新たにメダカなど水棲生物を間近に見られるミニビオトープ、緑のカーテンの設置など、子どもが遊ぶだけでなく、大人も楽しめる仕掛けと雰囲気をつくった。それにより、今まで滞在時間の少なかった空間に、子ども連れの家族を中心に多くの来園者がゆったりと過ごす様子が見られた。
- ・くつろぎのスペース作りとして、コテージのテラスや見晴らしの良い前庭、陽だまりの丘など季節ごとのオススメの場所にガーデンテーブルとチェアのセットを設置した。大人の来園者の利用が多くあり、これまでの利用形態として主流であった「ウォーキングや自然観察」から、さらに「くつろぎの場所としての公園」という新たな提案をすることができた。
- ・開園から22年が経過する中で、園内に多数設置されている注意看板が劣化し、自然景観が損なわれていることが課題となっていた。そのためリニューアルを計画し、ランドスケープのテーマを「公園の自然と調和し、親しみやすいデザイン」とした。令和2年度は園内10箇所の地図と5箇所の利用案内板、1箇所の大看板のリニューアルを行なった。それにより「まるでリゾート地に来たよう」など公園の景観が良くなったという意見が多く聞かれた。
- ・セルフで公園を楽しめるプログラムとして「ザリガニ釣りセット」「ハンモック」「双眼鏡」の無料貸出しを実施した。親子連れを中心に大変好評を得ることができ、新たな公園の魅力が付加されることに繋がった。
- ・コロナ禍で自然とのふれあいを求め、来園される方が大幅に増加したことに対応し、自ら公園を楽しめる仕組みとしてセルフガイドボードを設置した。季節ごとに見所を選定し、延べ約50箇所に設置をおこなった。それにより「これまで公園を歩くだけだったが、いろんな新しいことを知ることでより楽しめた」という声が多く聞かれた。また公園のシンボルであるサギソウの開花時期に合わせ、大駐車場からサギソウ園まで道標を設置したところ、例年以上に多くの方がサギソウ園を訪れ、花を觀賞する様子が見られた。
- ・ビジターコテージ研修室およびサブコテージの休憩室の有効利用として、公園でイベント利用する時間外に市民への部屋貸し出しを行い、延べ60団体の利用があった。

イ) 自然体験型のイベント及びプログラムの実施に関する業務

- ・感染症対策を徹底した上で、78回のイベント（うち自然体験型イベントは74回）を実施した。また満足度は95.4%（自然体験型イベントは94.7%）となり、昨年を上回った。感染症対策のためイベント回数は大きく減ったが、その分1回ごとの質を上げることができたと考ええる。
- ・専門的な技術や知識を学べるイベントとして、「自然観察会」（7月、8月）、「昆虫観察会」（8月、9月）や外部講師を招いた「草木染め教室」（12月）、「ウッドデッキ作り」（9月）、「星の観察会」（8月、3月）などを開催した。
- ・令和元年度に引き続き「伊賀や三重の自然の面白さや大切さを子どもたちに感じられる」プログラムを開催し、特に「直接生きものと触れ合える機会」を多く取り入れるよう企画した。具体的には「メダカを育てよう」「セミの羽化観察会」「夜の虫ライトトラップ」「バッタ観察会」「秋の鳴く虫観察会」などのイベントが挙げられる。これらのイベントは令和2年度も申込が多くアンケートの満足度も高かったことから、参加者のニーズと学習効果の高さを再確認できる結果となった。
- ・緊急事態宣言解除後の夏休み期間中、子どもたちのストレス解消や健康維持の目的も含め、自然体験型イベントを数多く開催した。8月は平日にも、自然観察会などの申込み不要のイベントをほぼ毎日実施した。自粛生活の中で自然体験を欲していた子どもや保護者から好評を得た。
- ・近隣のグループや団体との共同で乗馬体験（11月）などのイベントを開催した。ボランティアグループであるモリメイトとは「くぬぎの森づくり」（11月）を協力して開催した。また、近隣小学校を対象にネイチャークラフトのイベントを行った。
- ・感染症対策として、参加者には事前に対策方法を告知するとともに、イベント参加者をトレースできるように全参加者の連絡先を確認。当日朝の検温、手指の消毒、マスクの着用を徹底した。また実施中も密になる状況を作り出さないよう留意した。
- ・「三重こども森林・林業アカデミー自然体験事業」により、園内で初めてのキャンププログラム「めざせ！たき火マスター」を実施した。コロナ禍の中で泊りのないデイキャンププログラムとなったが好評を得た。
- ・地域の子どもが地域の自然環境に興味関心を持つきっかけを広く提供するイベントとして、令和元年度に引き続き、みえ森と緑の県民税を使った「伊賀の森っこ制度」等を活用し、隣接する伊賀市、名張市の小学校、幼稚園、保育園などを対象に13回の自然体験プログラムを開催した。443名の子どもたちにプログラム提供を行い、利用数は昨年度と同程度であった。複数の教師への聞き取りから、学校として「コロナ禍においてこそ子どもたちへの自然体験の機会を設けたい」という利用ニーズがあったと考えられる。
- ・令和元年度から延期となっていた「森林とふれあう自然公園環境整備事業」により、イベント参加者と共にビジターコテージのウッドデッキを整備した。ものづくりのイベントとしてだけでなく、公園に残るものを自分たちで作成できたと好評だった。

ウ) 三重県上野森林公園内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務

- ・スマートフォン利用者の増加に対応し、モバイル端末でもイベント情報等をタイムリーに提供できるように発信した。令和2年度からはInstagramも新たに開設し、ウェブサイトとFacebookを合わせて178回の更新を行い、令和元年度よりも大幅に投稿回数を増やした。Facebookでの評価となる「いいね」の数は520件と増加した。
- ・イベント情報を中心とするメールマガジンを、イベント参加者やウェブサイトからの希望者に対して、原則月2回配信し、登録アドレスは304件と増加した。
- ・伊賀ケーブルテレビとの連携を強化し、公園イベントのテレビ放映（18回）の他、毎月発行の情報誌に公園の自然情報が掲載された。これにより一般家庭への公園認知度が向上した。
- ・主にイベント情報を掲載したチラシである「上野森林公園通信」（A4フルカラー）を令和2年4月から令和3年3月にかけて伊賀市内の小中学校の全生徒へ5回配布（累計約2万1,000部）し、公園の近隣地域に積極的に情報発信を行った。

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ・植物管理、清掃管理、建物施設などの定期点検、巡回警備、修繕業務などにより、施設を清潔かつ快適に維持し、機能を適正に保持するとともに、異常個所の早期発見により、来園者の安全な利用を図れるよう努めた。
- ・植栽木の管理については、適正な剪定により良好な景観を維持することができた。日常的にウォーキング等で訪れる利用者からは「園内に多数ある生垣の管理がよくなった」という声を多く聞くことができた。森林内の植生管理については、老木となったコナラの部分枯れや、松枯れ病によるアカマツの立ち枯れが目立った。そのため1月から3月にかけてモリメイトと協力して100本以上を伐倒処理し、リスクマネジメントに努めた。また令和2年度は園路沿いのササ刈りを重点的に行ったため、利用者から「見通しが良くなり綺麗になっ

た」との声を多く聞くことができた。

- ・ビジターコテージ周辺の花壇管理では、季節ごとにガーデンの花を楽しめるよう育成を行った。これまで頻繁に鹿の食害を受けたため、実験花壇を設置し食害の少ない種を選定しながら管理した。実験の結果、マリーゴールドやサルビア、セージ、ラベンダーを中心に植栽したところ、被害が少なく通年を通して花壇を彩ることができた。これにより花を愛でながら休憩する方、花の前でスマートフォンの自撮りをする若者など、多様な来園者がコテージ周辺で思いおもいに過ごす様子を見ることができた。
- ・園内設備については、建設から22年経過しているために多くの場所で老朽化が進んでおり、今後も修繕の必要箇所が増加すると思われる。特に各園内施設の屋根や、木道、手すり、ビジターコテージの雨漏りについては早急な修繕が必要である。公園内に多数ある木柵については補修必要箇所が多数あるため、優先順位の高い場所から随時補修作業を進めている。また冬季トイレの凍結防止対策について、今年は記録的低温低下があったが、前年と同じく水道に凍結防止テープを巻いたことで、凍結による故障は1件のみとなった。

③ 県施策への配慮に関する業務

- ・新型コロナウイルス感染症の蔓延により、三重県より「新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた三重県指針」が出され、各時期において更新されたが、その都度、来園者への対応やイベントの中止、休館・駐車場の閉鎖など、適切に対応した。
- ・「みえ生物多様性推進プラン」に沿って、希少動植物の保護や外来生物の駆除などに努めた。公園内の池に生息するアメリカザリガニについては、保護啓発イベント（ザリガニ釣り大会）を開催し駆除を行った。また、生物多様性の普及啓発に努めたほか、三重県の野外体験保育事業の推進を図るため、子育て支援団体と協力し「てくてく探検隊」を7月から3月に概ね月2回、年間17回継続して実施した。

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・「三重県上野森林公園の管理に関する情報公開実施要領」を策定し、対応した。
令和2年度請求件数：0件

⑤ その他の業務

- ・令和2年度における事故は、2件の物損事故であった。

(2) 施設の利用状況

公園施設全体の利用者数	成果目標	令和元年度実績	令和2年度実績	達成率
	73,000人	104,946人	111,594人	152.9%
顧客満足度	成果目標	令和元年度実績	令和2年度実績	達成率
①施設利用者	80%	89.7%	89.5%	111.9%
②自然体験型イベント参加者	92%	93.7%	94.7%	102.9%

2 利用料金の収入の実績

指定管理をしている箇所では利用料金を徴収している箇所は無し。

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R元	R2		R元	R2
指定管理料	27,313,000	27,563,000	事業費	3,791,082	3,702,553
利用料金収入	0	0	管理費	24,253,315	25,043,643
その他の収入	1,056,279	905,133	その他の支出	0	0
合計 (a)	28,369,279	28,468,133	合計 (b)	28,044,397	28,746,196
収支差額 (a)-(b)	324,882	△ 278,063			

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

成果目標	施設利用者数	施設利用者の満足度	自然体験型イベント参加者の満足度
成果目標	73,000人	80%	92%
成果目標に対する実績	111,594人	89.5%	94.7%
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数について 目標を大きく上回り、過去最高の利用者数となった。月別においては8月、11月、12月、2月、3月が過去最高となっている。これは、令和元年度から伊賀市内の全小中学生に学校経由で「上野森林公園通信」を毎月配布するという事業を始めたことによる効果のほか、コロナ禍の影響も大きいと考える。日常的にも散策路を歩く年配者が目に見えて増加しており、利用者へのヒアリングでは「健康維持とストレス解消のため来園した」という声が多く、今後もこのようなニーズがさらに高まると考える。令和3年度はこのようなニーズに対応できる公園管理体制を構築すると同時に、近隣市民に向けた公園利用の情報提供やPR活動を行いたい。 ・イベントについて コロナ禍によるイベント自粛などにより、前年度に比べ実施回数は大きく減少した。その中でも、満足度は高くなっており、回数が減った分、内容を充実させることができた結果といえる。イベント自粛要請により、急遽イベントを中止せざるを得ない状況が多々あり、このような状況下では、これまでの手法で開催していくことは困難な状況である。今後、安全安心に開催するために「プログラムをできる限り屋外で完結」「オンラインでのプログラム開催」などの対応策を取り入れ、状況に合わせてその都度工夫しながら企画を実施したい。 ・セルフサービスの充実 来園者が散策しながら自ら自然のことを学ぶことができる「セルフガイドシステム」の設置を進める。現在約30箇所にセルフガイドボードを設置。今後も継続して設置数を増やし、季節ごとの自然の面白さや不思議さに気づききっかけとなるような内容を考えている。また、非対面で楽しめるウォークラリーの開催の他、公園を楽しむツールとして、ハンモックやザリガニ釣り竿、双眼鏡の貸出なども積極的に行う。 ・園内標識のリニューアル 散策路が複雑なため、初めて来た方でも地図と現地の標識を照らし合わせることで、自分の行きたい場所までたどり着くことのできる仕組みを整えたいと考えている。具体的にはフィールドマップのリニューアルと現在地のわかる標識の設置を行う。 ・公園利用方法の提案 これまでは利用者に公園を自由に散策してもらうことが中心であったが、季節ごとのオススメの場所や散策コースの紹介、公園の新しい楽しみ方の提案などによる公園利用を促したい。 ・自然環境について 園内は湿地が多く、特殊な環境にしか育たない希少な動植物が多数生息している。その中で外来種の侵入や遷移などの影響により、湿地環境が悪化している場所も多く存在する。そのため外来種の駆除や湿地環境の整備、園内の希少種や在来動植物群の再生を行う予定である。湿地の再生活動をイベントとして企画し、参加者と共に湿地の生物調査や湿地の造成を行うとともに、その活動自体が参加者の学びや交流の場へと醸成させる。さらには、環境保全活動の実践の場へと発展させることを目指す。 ・公園の景観について 「公園の自然と調和し、親しみやすいデザイン」というテーマを継続し、特に利用者から要望の多い老朽化した大型地図と各種案内看板のリニューアルを積極的に進めたいと考えている。新しく構造物を入れ替えるのではなく、既存の看板に印刷物を新たに貼り付けるな 		

	<p>ど、少しの工夫でわかりやすく見栄えも良くなるような管理を行う。花壇は、シカによる食害が少ない花を中心に育成し、四季折々華やかになるような管理を行う。</p> <p>・ボランティアについて</p> <p>ボランティアグループであるモリメイトについては、より広く広報するとともに、楽しめる活動を行うことで会員を増やしていく。特に若い世代の加入者を増やし、活動を活性化させる。</p>
--	--

5 管理業務に関する自己評価

評価の項目	評価		コメント
	R元	R2	
1 管理業務の実施状況	B	B	普段の清掃、適切な植物管理、日々の巡回による異常個所の早期発見など、施設の適切な維持管理、環境の美化に努めることができたが、まだ修繕の行われていない箇所についてはより注意していく必要がある。
2 施設の利用状況	A	A	年間利用者数の目標達成率は、A評価基準を上回り過去最高の 152.9%となった。
3 成果目標及びその実績	B	B	自然体験型イベントの満足度、施設満足度ともに目標を上回ることができた。

※評価の項目「1」の評価 :

「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 業務計画を順調に実施している。
「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価 :

「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 当初の目標を達成している。
「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<p>イベント満足度は前年度のレベルを維持し、質の高いプログラムを提供することができた。また公園の利用者数は閉鎖期間があったにも関わらず過去最高を記録し、前年度比 120%を超える利用者数の月もあった。県民のコロナ禍でのストレス解消や気分転換、健康維持など、公園の自然環境が持つポテンシャルを大いに活用してもらうことができたといえる。その反面、度重なるイベント自粛要請により、イベントを中止にせざるを得ないことも多く開催数及び参加者数は減少し、自主事業収入に影響が出た。より高いサービスを提供するため、自主事業収入を見込んだ運営に取り組んでいることから、これが収支に響くこととなった。</p> <p>多様な世代の公園利用が見られるようになり、利用のニーズが高まっているといえる。公園に求められる役割はますます高まることが予想されることから、新しい日常に対応したソフト開発にも注力していきたい。</p> <p>また、イベントを通して参加者に「地域の自然環境に対する興味を持つきっかけ」を提供できた。今後はさらにステップアップし、参加者が「地域の自然環境に愛着を持ち大切に感じる心を育む」ことへとつながるプログラムを企画したい。参加者が体験を積み重ねることを通して、その空間が参加者の学びや交流の場、環境保全活動の実践の場となること、ひいては参加者が地域の自然に興味を持ち行動を起こすことを目指したいと考えている。</p> <p>今後も引き続き、来園者が楽しみながら学び、発見できる機会を提供しつつ、自然環境の保全に配慮した管理業務を行なっていきたい。</p>
--------	--